にある県立高校の校長をしており、3月末に退職を

放射線に向き合いながら、村と共に歩む 飯舘村宮内地区 菅野 クニ 様



飯舘村宮内地区では、避難指示解除後に帰村 した住民が集い、交流するサロンを定期的に開 催しています。その活動の一環として、放射線に 関する勉強会の場を設け、放射線と向き合いな がら里山の生活を楽しみ、コミュニティの再生に 取り組んでいます。

本号では、その勉強会の発起人である菅野 ク二様にお話を伺いました。

- 東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故の発 生当時はどこにいらっしゃいましたか。

震災当時は、協会けんぽ(全国健康保険協会)の 嘱託保健師として、事業所の健康相談や特定保健指 導の業務に就いており、飯舘村に住んでいました。 夫は自宅から 90km 離れた福島県中通りの鏡石町

予定していたため、飯舘村の自宅と夫のいる鏡石町 とを行き来する生活をしていました。

―現在の飯舘村での暮らしについて教えてくださ い。

飯舘村宮内地区に夫と2人で暮らしています。 その他、仕事の関係で福島市にも住居を持ち、2拠 点で生活しています。準備宿泊が可能となった頃か ら帰村し、現在の家に住んでいたため、避難指示解 除日には飯舘村におりました。

―帰村されてから現在まで、村での暮らしに変化は ありましたか。

私の住む宮内地区の帰村率は高く、若い方も戻っ てきています。避難指示解除直後、帰村した方から は、帰村してもつまらない、することがないという 意見をよく耳にしましたが、放射線に関する理解を 深め、村の現状に向き合うことで、徐々に帰村後の 生活に関して前向きになってきているように感じま す。帰村しない住民の多くは、放射線不安があると いうよりも、勤め先の関係が大きいのではないかと 思います。

最近は、移住して来られる方が増えてきているよ うに感じます。この方たちは、そもそも放射線につ いて気にすることなく、飯舘村に移住してくれた印 象を受けています。不安を持っていないということ は悪いことではありませんが、再び福島第一原発事 故と同じようなことが起きた時、知識が無いことに より、事故当時の住民たちと同じように放射線に対 して大きな不安を感じてしまいかねないため、最低 限の放射線に関する知識を持ってもらえたら良いと 思います。今後は、移住して来られた皆さんと交流 し、放射線に関する理解を深められる機会を設けた いと考えています。

三宮内地区のサロン活動では、どのような活動をされていますか。

宮内地区のサロン活動では、毎月第2火曜日に 高齢者が集まって活動しています。お茶を飲みなが らお喋りを楽しんだり、お昼を一緒に手作りして食 べたりと交流を深めています。また、サロン活動の 一環として、放射線リスコミセンターに依頼し、放 射線に関する講話や浜通りの施設見学を通じて放射 線に関する理解を深めています。昨年は、自分たち の家や畑、田んぼで除染された土がどこへ運ばれ、 どのような工程で処理されるのか、地区に住む皆さ んと理解を深めたいと思い、中間貯蔵施設を見学し てきました。

一一菅野さんの携わる宮内地区の活動の中で、放射線 リスコミセンターを利用し、車座意見交換会や浜通 りの施設見学など、放射線や福島の現状を知る活動 に長年尽力されていらっしゃいます。ご自身を含め、 これまでに参加された方の心境や行動に何か変化は ありましたか。

これまで、放射線リスコミセンターの支援を受け、 平成31年度から現在まで、延べ16回、放射線の 勉強会を開催してきました。始めた当初は、参加者 の皆さんそれぞれに放射線は怖いものという認識が あり、漠然とした不安がありました。しかしながら、 勉強会を重ね、理解を深めていくうちに、そういっ た不安は無くなってきているように感じます。

また、参加者の学びが口伝いに家族に広がり、「子 どもが孫を連れて帰ってくるようになった。」、「飯 舘村の畑で採れた野菜を、娘がお土産に持って帰る ようになった。」という話も聞かれるようになりま した。みんなで集まって地域で採れたものを食べる ことも、不安の解消に繋がっているように感じます。

講話や見学型の車座意見交換会をこれまでに複数 回実施していただき、放射線について理解を深める ことができました。今後も継続して利用させてもら いたいです。何事も知らないことは損だと思います。 自分自身で調べたことに嘘はありません。私は、知 識は武器、自分たちで確かめたデータは、武器の中 でも盾となって守ってくれるものだと思います。



――放射線リスコミセンターに期待することはどのようなことですか。

現在、増加傾向にある飯舘村に移住して来られた 方への支援体制ができると良いなと思います。放射 線の問題は決してゼロにはなりません。せっかく飯 舘村へ移住してくれた皆さんに、放射線について 誤った知識で不安を感じて欲しくないと考えていま す。放射線に関する正しい知識、理解を深めてもら いたいです。

一一今後取り組んでいきたいこと、未来に願うことを 教えてください。

飯舘村の人、先祖代々受け継いできた土地、里山、 全てが財産です。村にある「恵み」を一人一人が理 解し、これらを大事にして生活していきたいです。

――里山での生活を楽しめるよう、放射線に向き合いながら、村の未来を考えて幅広く活動されていることが分かりました。本日はありがとうございました。

専門家派遣の例

富岡町企画課 企業向けツアー 専門家派遣

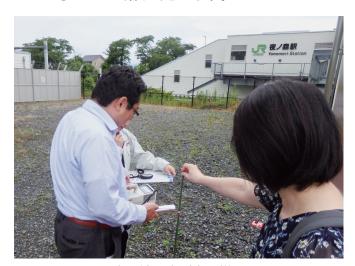


講義の様子

富岡町より、令和6年7月11日に町が企画する ツアー内で放射線の健康影響等に関する説明や空間線 量率測定、放射線に関する質問があった際に対応して ほしいとの要望を受け、専門家を派遣しました。町内 へ立地を検討する企業等から、ごく少数ではあるもの の、放射線について不安の声が挙がっていることから、 生活環境や放射線不安等について相談を受ける可能性 がある経営・人事担当の方々が参加しました。

講義では、松原昌平先生(原子力安全研究協会)を 講師に迎え、放射線に関する基礎と健康影響、原発事 故当時から現在までの空間線量率の推移等について説 明を行いました。次に町内3カ所(夜ノ森駅、富岡 産業団地、町営住宅)の空間線量率を測定し、測定結 果の数値の意味と健康への影響等について説明を行い ました。参加者からは、「町内の空間線量率や生活上 での放射線による健康影響について、改めて問題ない、 心配しなくても良いことが分かった」等の感想があり ました。

今回の講義や空間線量率測定を通して得た知識を役立ててもらえると嬉しく思います。



空間線量率測定の様子

募集型車座意見交換会の例

震災遺構浪江町立請戸小学校、 東日本大震災・原子力災害伝承館 見学を通した車座意見交換会

令和6年8月24日、福島県の現状や放射線についての理解を深めることを目的に、施設見学型の車座意見交換会を開催しました。今回は、いわき地区の小中学校へ通学する児童や生徒及びその保護者、計12名の皆様にご参加いただき、震災遺構浪江町立請戸小

学校、東日本大震災・原子力災害伝承館の見学を行いました。小学生を含むご家族での参加もあり、幅広い 年代の方々にご参加いただきました。

最初の見学地である震災遺構浪江町立請戸小学校では、津波による建物の被害状況や展示資料等の見学を行い、子どもたちや保護者の方々にとって身近な場所である学校の遺構で、津波の被害状況を肌で感じることができました。



震災遺構浪江町立請戸小学校見学の様子

2つ目の見学地である東日本大震災・原子力災害伝 承館では、福島県における原子力災害及び復興の過程 についての展示資料を見ることで、福島第一原子力発 電所の事故当時を振り返り、原子力災害における放射 線の影響や廃炉作業を含めた福島県の復興への取り組 みについて学び、理解を深めました。

その後、双葉町産業交流センターでは、専門家等を 交えながら見学を通して感じたこと・疑問に思ったこ となどについて意見交換を行いました。



意見交換の様子

参加者からは、「実家が農家であるため、水の放射 線量について少し気になっていた。今回参加して、不 安は解消した」、「子どもが東日本大震災を知らない世代であるため、施設見学を通して、震災で起こったことを実際に見て学んでほしいと思い、応募に至った。 当時、大量にあったフレコンバックがなくなっている 状況を見ると、良い方向に復興していると感じた」等の声もあり、実際に自身の目で見ていただくことに意義を感じる車座意見交換会となりました。

募集型車座意見交換会の例

大学生のための 中間貯蔵施設見学を通した 車座意見交換会



見学会の様子

令和6年9月4日、県北地区の大学生を対象とした一般募集型の車座意見交換会を開催しました。

当日は、福島大学、福島県立医科大学の学生5名と教員1名、計6名の方にご参加いただき、中間貯蔵施設の見学を行った後、意見交換を行いました。

中間貯蔵施設工事情報センターでは、はじめに施設 担当者から中間貯蔵施設の概要や工事の進捗状況等に 関する説明を受けた後、実際に施設内の見学を行いま した。敷地内の一部エリアでは、バスから降車し、土 壌貯蔵施設の上で空間線量率の測定を行い、実際の体 験を通して安全性を確認しました。

見学時、参加者からは「再生利用するための除去土壌は8,000ベクレル以下であるのはなぜか」という質問があり、施設担当者が「埋立処分を行う作業者が1日8時間、1週間に5日間作業して、被ばく線量が1年間で1ミリシーベルトを超えない基準である」

と回答しました。

中間貯蔵施設見学終了後は、震災前後の町の状況等について環境省職員による説明を聞きながら、双葉町の旧商店街や初發神社、消防団屯所等、双葉町内を車窓見学し、震災から現在に至るまでの地域の様子について理解を深めました。

意見交換会では、久保田彩乃先生(福島大学)をファシリテーターに迎え、その日見聞きしたことの感想を共有し、意見交換を行いました。参加者からは、「福島県出身だが浜通りのことや除去土壌等について知らないことが多いと感じた」、「除去土壌の再生利用は実現すると良いため、自分も周囲に理解を広めて行けたらと思う」、といった意見や感想がありました。



意見交換の様子

普段は異なる大学に通う学生が、一緒に浜通りの現状を見学し、その日感じたことや想いを共にできる貴重な機会となったのではないでしょうか。

放射線リスコミセンターでは、福島県の未来を担う 若い世代の皆さんに、福島の現状や放射線に関する正 しい理解を深めていただけるよう、今後もこのような 会を開催して参ります。

放射線リスクコミュニケーション相談員支援センターだより No.41

発行:**放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター**

連絡先:〒970-8026 いわき市平字小太郎町1-6

いわきセンタービル5階 フリーダイヤル:0120-478-100

FAX: 0246-35-5158

E-mail: F-sodan@nsra.or.jp